

## 「学校のきまりを考える」 1

今月4日、足立区内の公立中学校の代表生徒1名ずつが、梅島にあるホールに集まり、学校のきまりについて話し合う場が設けられた。本校からも2年生の生徒会長が出席し、学校の様子や意見を発表し、他校の対応も知ることができたようだ。それを受けて、21日の生徒朝礼で生徒会長が校則についての発表をした。その内容は次のようなものであった。

『みなさんは校則についてどう思いますか』。各学校の代表生徒が話し合っただけでなく、校則を考えるうえで大切なのは目的・責任・多様性の三つだと思えます。これらが歯車のように噛み合っていてできています。

一つ目の歯車は目的。必要なのは『力強い声』です。感情に任せに大きな声を出すということではなく、根拠を明確にした納得できる声です。根拠があることで、目標をはっきりさせることができます。校則で考えると、根拠があることで学校全体がその目的に向かって進んでいくことができます。そして、現在の校則についても、その根拠を考えていくことが大事です。二つ目の歯車は責任。校則は守る側にも出す側にも責任があります。校則を少なくすれば、一見、自由のように思えますが、自由には責任を伴います。変えるときでも、責任のとれる範囲にすべきだと思えます。三つ目は多様性。多様性といいながら、すべてを容認してしまうと、結局は格差につながってしまいます。性の多様性として、制服があげられます。ある中学校では男女という言い方を1型2型とし、来年度からは型をなくしていくとのこと。また、委員会では区内の多くの学校で男女の枠を撤廃しているそうです。ただ、男女がいないと成り立たない委員会もあるので、できる委員会から変えています。大事なことは少しずつできることから変えていくことです。

目的、責任、多様性、この3つのことを意識して学校生活をより良くするために、生徒総会で発表した青葉プロジェクト『思いやり』『責任』『挑戦』を根拠にしながら、みなさんと一緒に校則について考えていきましょう。1階昇降口付近に目安箱を設置しておくので、そこに根拠ある声を寄せてください」(つづく)

11月24日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 4、5、5、6、7の数字が書かれた5枚のカードがあります。この中から3枚のカードをひいて、順に並べました。全部で何種類の3桁の数字ができるでしょうか。